

Akatake Times

Vol. 22
(通算 第175号)

明けましておめでとうございます。
今年は戌年です。犬は社会性があり、忠実な動物です。そして“勤勉で努力家”！
まさに日本人にピッタリな年になるかもしれませんね。
会社もプライベートも、足元をしっかりと見つめながらコツコツと精進しましょう！！



本年もよろしくお祈りします

暮れに、大掃除を済ませ、お飾りを用意して、うやうやしい気持ちで歳神様をお迎えました。先ずは私どもが健康・安全で過ごせますように、また多くの課題を背負っていますが、一步一步成長を続けていくことができますようにと、八百万ほどいらっしゃると言われる神様に祈らずにはられません。佳い年になりますように！

◆2018年を表す諺（ことわざ）

今年の新年号は、なにか諺をということなので地味ではありますが『急がば回れ』を選びました。ご承知のようにその意味は、急いでいる時は焦っていて、つい近道をしたくなるが、それが失敗の原因となることもある。多少遠回りでも安全な道を行ったほうが、結局は早く着く。時間や手間がかかっても、安全で確実な方法を選択した方が良いということです。なんとなくのんびりやればいいのではありません。安全な道に行く「目的、手段、リスクとその回避策など」を明確にしておくことが肝要かと思えます。慎重居士であっても多くの情報を分析し、決断は素早くしなければなりません。

◆健康管理を怠るなかれ

私事、昨年は体に思いがけない変調をきたしましたが、幸いにも完治し普段通りの生活ができるようになりました。全く幸運だったという言葉しか見当たりません。健康管理にはことさら気を付けている私ですが、ウツカリでした。皆さんも適時健康にはチェックを怠らずお願いします。

◆三井ショッピングパーク ららぽーと沼津、2019秋に開業

我が社の東に500メートルほど行ったところ(田園地帯)に今、急ピッチで造成が行われています。大型ショッピングセンターの建設準備が始まりました。敷地面積36,000坪、駐車台数3,500台、テナント数200店ほど、建築着工2018年夏、竣工・開業が2019年秋。えー、こんなに広いのかと思われるほど広大な造成地です。様々な変化が起こるでしょうが、我が社にとって懸念すべき事は、交通渋滞や交通事故の問題でしょうか。特に愛鷹スマートインターから出入りする車は大変車幅が狭い道を通るわけですから危険が伴います。どうか、関係者には安全対策には万全を期してほしいと願っています。

◆「せせなぎ」

私は、来る1月21日にSBSラジオの15分番組にご縁があって出演します。粉体に関わることを話す訳ですが、行き当たりばったりでは失礼なのでチョット下調べをしています。その中で、三輪茂雄先生(1927年7月～2007年10月、同志社大学名誉教授、石臼の研究・鳴き砂・砂時計でも有名)の興味深い記載がありましたので紹介します。最近しばしば新聞などで目にする「せせらぎ」に関するものです。昨年、12月22日に富士宮市にオープンした富士山世界遺産センターに「せせらぎ広場」があります。三島市の「せせらぎ回遊ルート」もあります。「せせらぎ」は「せせなぎ」とも言いまして、三輪先生は、「せせなぎ」について論じています。辞書を引くと「溝、どぶ、小さな川」とある。先生曰く、『せせなぎは、現代語では清流を連想するが、江戸時代の古い書物には、民家の裏から畑に沿って土を掘り割っただけの下水溝があった。お勝手場からの炊事汚水は、この溝をゆっくり流れ、近くの小川か池にそそいでいた。これを「せせなぎ」とよんだ。[中略] 諺に水三尺流れれば清しという。もっと古い書物には「水は三尺流れれば水神様が住める」ともある。汚水流入点から数メートル先で溝の幅を広げ、水はよどんで流れる。ここは悪臭漂うもっとも不潔な場所だから植物を繁らせて覆い隠した。夏には無花果(いちじく)、ホウズキ、フキなどが繁茂し柿の木もすくすく育つ。子供の頃は遊び場にもなった。汚いところをうまく活用した素晴らしい工夫だ。排水量が一時的に増してもこの湿地帯が緩衝作用をもち、下流へ汚水が流入するのを防いだ。現代でいうと下水処理場の活性汚泥法である。家ごとにやっていたことを都市単位でやっているが、汚泥を山などに捨てて地下水の汚染につながるという悪しき遺産を残した』

おまけで・・・

『貨物船の話・・・船員は硬い鉄板の床を毎日歩いていると殺伐とした気持ちになり喧嘩が絶えない。先生、柔らかい床にしたいのですが何かいいものはありませんか？と船主に尋ねられたことがある。ふと思うのは、我々の生活する回りはコンクリートやアスファルトばかりだ。昔は、土の上を歩いたもんだ。ひとの心が乱れるのはそんな硬い上を歩いてばかりいることも関係しているのかもしれない』以上の2点は、私どもが住んでいる地球は、粉体(土)と水でできている、というテーマからでした。

この4月に、新しい仲間が二人増えます。一緒に戦えることを楽しみにしています。

最後に、未来に関するピーター・ドラッカー(経営学者、1909～2005年)の言葉をみなさんに贈ります。『既に起こった未来を利用する。来たるべき未来を発生させる。明日、何をするか決めるより、未来を創るために今日何をすべきか決めることが大事』

ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀